在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2018/12 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集　北海道教育大学・小樽商科大学の２次試験対策

今回は代々木ゼミナール主催の北海道教育大学・小樽商科大学２次対策指導分析会に参加していただいた先生方によるレポートです。昨年もこの分析会が開催され、レポートを書いていただきましたが、代ゼミではこの２校を受験した現役生や浪人生に再現答案を提供してもらい、それに基づいて分析しています。もちろん湖陵生にも協力してもらっており、毎年卒業式前後に提供の依頼をしています。３年生諸君はまずは一読してください。そのあとは封印です。センター試験が終了してから改めて「2018/１中期」通信と合わせて熟読し、２次対策に取り組んでください。

数学　　三宅先生

北海道教育大

＜全体＞

・標準問題よりも難しいが、得点率は高い。
・時間的には余裕がある。(1問30分使うことができる)
・証明の問題は毎年出題され、そこで差がついている。対策としては、数学ⅡB教科書の公式の証明をチェックすること。数学的帰納法が例年出ているが、次は図形と方程式の分野「点と直線の距離」「円の接線の公式」などが考えられる。
・文字を複数含んだ基礎的な計算が毎年出題されている。年度の2018を使う指数や対数の問題などは頻出である。
・似た傾向の問題形式の大学としては、宮城教育大(ただし、数Ⅲなしの問題)。証明がないが、求値問題のイメージとしてはよい。証明問題としては、広島大。

＜再現答案9枚の正答率＞

	正答率（合格者）	正答率（不合格者）
【1】(1)	7／7	2／2
(2)	6／7	2／2
(3)	7／7	2／2
(4)	7／7	2／2
【2】(1)	7／7	1／2
(2)	6／7	0／2
(3)	6／7	1／2
【3】(1)	1／7	0／2
(2)	0／7	0／2
(3)	0／7	0／2

＜大問構成＞

【1】　微分積分(数学Ⅱ)
【2】　ベクトル(数学B)
【3】　図形と方程式(数学Ⅱ)、整数(数学A)

＜各大問ごとの分析・コメント＞

【1】　難易度は易。微分積分の基本的な問題。北大の問題に似ている。しっかりとグラフを描くことが必要である。再現答案の結果からも、この問題で差がつくことはない。

【2】　難易度は易。(1)(2)は証明になっていない学生が目立つ。証明問題では式の省略はしないことが大事。また、ベクトルの計算において、始点変換が不自由な学生が多い。公式の丸暗記ではなく、始点変換をしっかりと行ってほしい。

【3】　難易度は難。再現答案はほぼ白紙である。(1)の証明ができなくても、(1)の結果を使い(2)(3)を解くべきである。(点数は貰えるはず。このようなことは道内の大学は問題ないと見ている。)いかに部分点を貰うかというレベルの問題。
　この状況では、センター試験でほぼ合否は決まる。2次では差がつくことはない。【1】【2】が取れれば合格。【1】【2】をミスするようならば厳しい。(数学を選択しない方がよい。)受験として、難易度が改善される可能性もある。

小樽商科大

＜全体＞

・教科書レベルの内容の問題と難しい問題の出題。特に数Ⅲの問題は易しい。数Ⅲを学んでいる理系の学生は数Ⅲを選択した方がよい。
・数学と国語の点数の低い方が半分になるので、数学ができなくても、国語ができれば合格できる。
・今年度は昨年度より点数が取れていないが、再現答案を見ると、甘く点数がついていると予想される。小問集合の問題も部分点が出ている可能性がある。小問集合は大問の2つはできるようにすること。出る分野としては、場合の数・数列・三角関数・指数対数が多い。
・2年毎に似ている問題が出ている(講師の予想)。微分積分の対策は十分に行うこと。
・似た傾向の問題形式の大学としては、学習院大。

＜再現答案17枚の正答率＞

	正答率（合格者）	正答率（不合格者）
【1】(1)	12／17	0／3
(2)	16／17	3／3
(3)	9／17	0／3
【2】(1)	3／17	0／3
(2)	1／17	0／3
【3】(1)	8／17	1／3
(2)	7／17	1／3
(3)	5／17	0／3
【4】	8／16	0／3

＜大問構成＞

【1】　小問集合
【2】　絶対値を含む不等式(数学Ⅰ)、整数(数学A)
【3】　小問集合
【4】　微分積分(数学Ⅱ)
【5】　微分積分(数学Ⅲ)　＊【4】【5】は選択

＜各大問ごとの分析・コメント＞

【1】　(1)(2)は易。小問集合の解答のみ記載の問題だが、部分点が出ている可能性あり。例えば(1)の(4，0)、(3)の-1010に近い値など。(3)は数列の問題で、ここで差がついている。数列は、記号を読むことが大事。記号の解釈が不十分の学生が多い。Σについては、公式をすぐに利用するのではなく、まずは書き並べることも大事である。

【2】　難易度はやや難。良問であり、今後このような問題が増えていくと予想される。(1)は絶対値をはずして、二次不等式と解いてもよいが、グラフを用いて解いてもよい。注意としては、場合分けの問題で不適という言葉をよく理解していないのに使っていることが多い。しっかりと理由を書いて使うように指導すべきである。(2)はnに適当に代入して探し当てている再現答案があったが、開示の結果から部分点が出ている可能性が高い。

【3】　難易度は易。(1)の証明は加法定理を用いてもよいが大変である。(2)は114個という解答が多かった。否定のとり方に注意してほしい。

【4】　例年難しいが今年度はやりやすい問題であった。このレベルの問題は完答、もしくは面積の式までは最低限いきたいところである。

【5】　基本的な問題である。理系は選択させたい。

英語　　品田先生

小樽商科大学の英語（昨年度の入試問題分析より）

◆概要　・試験時間１００分　・配点２００点　大問数５題　・目標得点率　６０％以上
英答英問型読解問題＋誤文訂正型読解問題＋英問英答型読解問題＋会話文補充問題＋自由英作文
◆問題の特徴・全て英問英答形式で客観問題は皆無：受験生には取り組みにくい入試問題
やや難　　・問題作成・採点にネイティブスピーカーが大きく携わっている(と考えられる)
・英文の読解・内容把握、英語による表現・記述力等を見ることに主眼を置いている。

１．大問１の形式と特徴･･･他大学では出題歴のない形式：５問×６点=３０点、
・出題文章(論説文や随筆：３００語程度)に関する英語の答えに相応した英語の質問を作成する
・[意図]英文で書かれた文章を正確に読み取り、その内容に関して英語で質問する力をみる。
・[評価]文法的に正しく、かつ自然な英語で質問ができているかどうか、を評価する。
・[対応]設問の答えから、どのような形で質問しなければならないのか(発想の逆転)の練習が必要。

２．大問２の形式と特徴･･･誤文訂正型読解問題：５問×１０点=５０点
・出題文章(論説や随筆：３００語程度)に対して、英語で書かれた１０個の選択肢から本文の内容と合致しないものを５つ選び、それぞれ正しい内容の英文に訂正する。
・[意図]英文で書かれた文章を正確に読み取り、その内容の真偽について判断する力をみる。
・[評価]英文の内容について、その真偽を判断すると共に、間違いを的確に修正で来ているかどうかを評価する。
・[対応]センター試験長文の４択問題から、誤文に関しては必要な箇所だけ訂正できる力をつける。

３．大問３の形式と特徴･･･英問英答形型読解問題：６問×５点=３０点
・出題文章(論説や随筆：３００語程度)に対して、文章に関する質問に相応しい英語の答えを作成。
・[意図]英文で書かれた文章を正確に読み取り、その内容に関して英語で解答できる力をみる。
・[評価]英文の内容について、文法的に正しく適切な英語を使って解答できているかを評価する。
・[対応]　日頃の英作文問題の取り組みから、答える際には代名詞化できるものはないか、動詞(時制・態・相)は適切か等、意識を持って解答する。

４．大問４の形式と特徴･･･対話文補充問題：１０問×４点=４０点
・対話文を読んで、その流れに合うように、空欄を適切な英語表現で埋める。(語数制限なし)
・[意図]日常生活のさまざまな場面で使われる対話を英語で表現できる力をみる。
・[評価]対話の流れを把握し、英語で適切な受け答えができているかどうかを評価する。
・[対応] パワーステージ等に掲載されている会話表現の定番の表現を暗記すること。

５．大問５の形式と特徴･･･自由英作文問題：２問×２５点=５０点
・指定された条件をもとに短いエッセイを書いたり、データや写真等を見てそれを英語で説明・描写する。ただし、毎年のようにマイナーチェンジがあるので要注意。(６０ words 前後の語数制限)。
・[対応] 文法・語法・スペルミスを極力減らす意識を持って日頃から、自由英作文問題に取り組む。書きたいことではなく確実に書けることを書く。その際、陳腐な内容でもかまわない。平凡な内容を確実な表現で書く練習をすること。図表・グラフの書き方を身につける。

◆予備校の先生からは、「小樽商大は、北の外語大という意識がある」とのことです。確かに、優秀な高校英語教員を多く輩出しています。北大と樽商大の英語問題は、全く傾向や内容が異なります。志望校を変更し「樽商大」を目指す際には、英語の過去問に目を通して、「自分の英語力が通じるかどうかのチェックが絶対に必要な大学」というのが、予備校の先生からのアドバイスです。

北海道教育大学の英語（昨年度の入試問題分析より）

◆概要　・試験時間９０分　・配点２００点　大問数５題　・目標得点率　６５％以上
論説文読解問題[客観のみ]＋論説文読解問題[客観＋記述]＋語句定義完成問題
＋誤文訂正問題＋データ読み取り問題[客観＋英作文]
◆問題の特徴・客観問題・記述問題（日本語と英語）がバランス良く配置されている。
標準レベル・語句定義問題の出題形式は他大学の入試ではあまり見られない。
・大問２の記述問題の指定される語数がやや多め。記述問題に慣れる必要あり。

１．大問１の形式と特徴･･･論説文読解問題[客観のみ]　１０問×４点=４０点と予想される
・やや長め(７００語程度)の論説文に対して、英語で書かれた適切な選択肢を選ぶ。
・主に語句の意味問題と内容説明問題が課され、本文全体を読まないと解けないような問題は出題されていない。
・[対応]問題文のキーワードから該当箇所をピンポイントで見つけて解答を作成する。

２．大問２の形式と特徴･･･論説文読解問題[客観＋記述]
客観問題３題×５点＋８０字の記述問題２題×１５点＋１２０字記述問題１題×２０点＝６５点
・標準的な長さ(６００語程度)の論説文に対して、日本語の質問に対して解答する。
・[対応]ある程度の長さの英文(パラグラフ)を日本語でまとめる練習が必要。
タイトル選択問題が課されるため、文章全体の趣旨を捉える練習が必要。

３．大問３の形式と特徴･･･語句定義完成問題　　４問×１０点=４０点
・与えられた語句の定義を２５以下の英語で書く。
・２０１８年度　1. dictionary　2. blackboard　3. birthday　4. railway station
・２０１７年度　1. penguin　2. umbrella　3. island　4 elementary school
・[対応]定義とは「読んで誰もがそれを指しているとわかる」説明であること。
スペル・文法・語法のミスに注意する。

４．大問４の形式と特徴･･･誤文訂正問題　　３問×５点=１５点
・与えられた英文の誤っている部分を特定し、正しい形に訂正する。
・１文につき訂正箇所は一箇所。
・用意されるミスは全て基本的な文法・語法・語彙・スペルに関するもの。
・[対応]英語表現テキスト「入試必携英作文」各章 EXERCISES　A-１の問題から文法の誤りに対する目の付け所を確認すること。パワーステージの形容詞・副詞等を確認すること。

５．大問５の形式と特徴･･･データ読み取り問題[客観＋英作文]
内容一致選択問題４問×５点＋英作文問題２０点＝４０点
・与えられたデータ(表やグラフ)とそれに関する文章を読み設問に答える。
・内容一致選択問題４題＋英作文(４０語以内)
・[対応]文章とデータを見比べ、論理的な文章の書き方(抽象→具体)を練習する。書きたいことではなく確実に書けることを書く。その際、陳腐な内容でもかまわない。平凡な内容を確実な表現で書く練習をすること。図表・グラフの書き方を身につける。

◆予備校の先生からは、GMARCH や関関同立レベルの主に「論説文」を利用して、練習を積むことが必要、とのことでした。また、中堅国公立大入試を活用して、１００語前後の記述問題に慣れておくことが大切、というアドバイスです。